

# 第71回 公開講座

## 介護労働者のストレスと離職問題を考える

～使い捨てない人材の養成とキャリア形成の支援は可能か？～

日時 2012年10月26日（金）13：00～14：30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 澤田 有希子（人間健康学部助教）

超高齢社会となった日本では、2011年現在高齢者人口が全人口の23.3%を占めており、高齢者福祉の現場では、134万人を超える介護職員が働いている。介護保険制度創設から12年が経過し、介護サービスの利用も浸透してきた。ひとり暮らしや夫婦世帯の増加、要介護高齢者の増加に伴い、介護専門職に対する期待やニーズはますます高まっている。

対人援助職である介護労働は、様々な疾患を抱える高齢者の日常生活を支える仕事であり、ケアの相互関係から多くの喜びを感じる仕事であるが、同時に肉体的精神的な疲労感を間断なく感じるストレスの高い仕事であるとも言われる。また、高齢者介護の現場は長年女性の職場とされており、専門性が評価されにくく、低賃金が維持されてきた。その結果、離職率の高さが問題とされ、人手不足が深刻化している。高齢化のピークを迎える2025年には高齢者人口は全人口の40.5%を占めると予測されており、社会保障審議会社会福祉部会は、今後10年以内に介護職員を少なくとも40～50万人増員することが必要だと指摘する。しかし現状では求人数が求職者を上回る深刻な人材不足が続く状況である。一方で、認知症ケア、ターミナルケアなど、近年は医療との連携の必要性も高まり、より高度な知識と技術をもつ介護職を育成することが求められている。このような状況の中で、果たして高い専門性をもつ介護人材を確保し、養成していくことは可能なのだろうか。

本講座では、まず介護労働者の離職問題の主な原因とされるストレスとして、賃金、専門職性、キャリア形成、雇用管理の4点に着目して考えていく。介護労働安定センターの最新の調査報告によれば、福祉職の離職率はやや低下傾向にあるが、人材の確保はなお最も重要な課題の一つである。また処遇改善交付金の支給により介護職員の平均賃金はやや増加したが、賃金の低さに対する不満はいまだ多く存在する。このような賃金問題に加え、介護職は専門性の異なる資格をもつ人材が横並びに混在しており、専門性に対する評価を得にくい上、キャリアパスも乏しく、将来の展望が描きづらいことも指摘されてきた。厚労省が描くキャリアパスの仕組みを紹介し、2004年～2012年にかけて実施した介護職インタビュー調査からいくつかの事例を紹介して考えたい。さらに、雇用関係や労働条件の未整備、職場組織の人間関係の課題についても論じていく。

誰もが安心して働き、老いていくことができる介護社会の仕組みを安定させるためには、介護労働が長期的に就労可能な魅力ある職業として確立することが必須である。ストレスやキャリア支援の研究はこのような可能性を模索していく一つの方法であると考えます。

\* \* \*

●聴講無料 予約は不要です。多数のご来場を歓迎します。  
手話通訳が必要な場合は、10月11日（木）までに人権問題研究室へご連絡ください。



THINK×ACT  
KANSAI  
UNIVERSITY

関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車  
Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

ホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/hrs>